

じゃんぽ!



先週のことです。たいようくみの劇を見に行かせてもらう機会があったので、初めて見させてもらいました。年長さんの表現の仕方（音に合わせて登場してくる、役になりきった体の動き）に、思わず心が奪われ、“つぎはどんなお話になるのだろうか”と展開が気になるものでした。そんな素敵な劇をみせてもらい、子供たちはうずうず…。「なつめさんの劇も、お客さんに来てもらいたい！」

「でもドキドキする…」初めてお客さんにみてもらうことに緊張する子供もいます。そこで、帰りの会の時に、どんな気持ちになるのかをみんなで話すことにしました。Aさんは、「上手に言えるか、ドキドキする。」Bさんは、「大きい声で言えるかドキドキする。」Cさんは、「楽しんでもらえるかドキドキする。」自分の気持ちをみんなの前で話すことで、いろいろな“ドキドキ”があることが分かりました。「私も一緒!」「僕も、それと同じドキドキした!」と、話してくれた子に返事する周りの友達もいました。自分一人だけがドキドキしているのではなく、みんなも一緒にドキドキしているんだ、ということも分かり、少しほっとした子供たち。“ドキドキ”の気持ちをみんなと一緒に共有することで、安心した様子でした。（ドキドキしてもいいんだ!自分だけじゃないんだ!）



「でもドキドキした時って、どうしたらいい?」と子供たちに尋ねてみると、「“頑張ろう”って思う。」と自分で自分を勇気づける、という意見もありました。「先生は、お友達から応援してもらおうと頑張ろうって思うときもあるよ。」と私の思いを話してみました。それは、一人で頑張る劇だけでなく、なつめ組みんなで創った劇であることを感じてほしいと思ったからです。そんな私の思いを聞いて、Dさんは、「確かに、隣で一緒に歌ってくれたり踊ってくると嬉しい。」と自分の感じたことを話してくれました。そのDさんの言葉に、周りの子たちも、“確かに。”という様子で頷いていました。劇に対する思いをみんなで確かめ合い、より一緒に楽しもうという気持ちが強まった瞬間でした。



そして今週、たいよう組とこあら組のみんなに劇を見てもらいました。初めて大勢のお客さんの前に立ってセリフを話したり踊ったりすることに緊張しまくりの子供たちでしたが、みんなから温かい拍手をもらおうとホッと一息。「踊っているところがよかった。」「声が大きくて聞きやすい。」などたいよう組からは具体的な感想をもらい、嬉しそうに笑うなつめ組でした。こあら組は、一緒に歌を歌ったり手拍子をしてもらったりして、劇を盛り上げてくれました。

さあ、緊急事態宣言も解除されず、3月12日に延びてしまいました。しかし!その分私も含め子供たちと劇に対する気持ちを高め、今よりもさらに素敵な劇ができる!ということを感じて、劇ごっこを進めていこうと思います。お楽しみに☺️(今週は文章ばかりですみません…。)